

3 平成26年度「悩みやいじめに関するアンケート調査」の分析結果について

1 調査目的

本調査は、子ども自身の受け止めに重視して行うものであり、児童生徒の実態や各校の取組状況をより適切に把握し、いじめの早期発見、早期対応に資することを目的とする。

(参考) 「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人間関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

(いじめ防止対策推進法 第二条第一項)

2 調査対象と回収率

	小学校 ^{分校含む}	中学校 ^{分校含む}	高等学校 ^{定時制含む}	特別支援学校	合計
学校数	203校	98校	8校	4校	313校
児童生徒数	89,437人	44,845人	7,543人	271人	142,096人
調査提出児童生徒数	87,900人	42,577人	7,017人	227人	137,721人
回収率	98.3%	94.9%	93.0%	83.8%	96.9%
平成25年度 回収率	98.0%	94.1%	92.9%	90.6%	96.5%

3 調査実施日程等

- (1) 学校への調査依頼通知日 平成 26 年 10 月 15 日 (水)
- (2) 児童生徒調査用紙配布日 平成 26 年 11 月 11 日 (火) <調査実施日>
- (3) 児童生徒調査用紙回収日 平成 26 年 11 月 12 日 (水)
- (4) 市教委への調査用紙提出 平成 26 年 11 月 18 日 (火)

4 調査内容及び方法等

- (1) 札幌市全体のいじめに関する実態や対応状況について把握し今後の取組に資するとともに、各学校における、いじめの未然防止や早期発見、早期対応が一層進むよう本調査を実施することとする。
いじめは、どの子どもにも、どの学校でも起こるうることや、全国でいじめが背景事情として認められる自殺事案が発生していることなどから、いじめ根絶に向けて、子どもの悩みやいじめの状況等についての的確に把握し、速やかに適切な対応をすることが重要であると考え。
- (2) 調査用紙は、本市のスクールカウンセラースーパーバイザーの助言のもと、学校用と児童生徒用の2種類を用意し、児童生徒用については、発達の段階を踏まえ、設問事項の表現等に配慮した上で、全校種共通のものを作成した。
- (3) 児童生徒用調査用紙は、いじめの早期発見・早期対応の観点から記名式とし、さらに、プライバシー保護のため、各家庭で記入し、添付の封筒に入れ学校に提出するなどの配慮をした。ただし、何らかの事情により、無記名を希望する、または提出を希望しない保護者や児童生徒がいる場合、その意向を尊重することとした。
- (4) 学校には、回収した調査結果を基に、関係する児童生徒に対し、その気持ちに配慮しつつ慎重に事実確認を行い、その不安やいじめ解消に向けた早期の取組を指示した。
- (5) 本調査では、いじめの実態を多面的に把握する観点から、児童生徒に直接質問する調査の他に、様々な理由から自己申告できない児童生徒もいることを予想し、自己申告されたもの以外に、他の方法により、学校が「いじめが疑われる」と判断している数についても調査することとした。加えて、児童生徒への調査において「最近いじめられている人を見たり、聞いたりしたことがありますか」という質問も設け、本人以外からの情報も活用できるよう配慮した。

注1) 分析に当たっては、校種別(定時制高校4年生は高校3年生に組込んだ)を基本とし、本市のスクールカウンセラースーパーバイザーや有識者などからの助言等も参考にした。なお、特別支援学校のデータは各校種のデータに加算した。

注2) 児童生徒用の調査における、各項目の数値については、無回答の児童生徒もいるため、回答数の合計が、必ずしも調査提出児童生徒数と一致していない。

目 調査結果と考察

<児童生徒の意識調査の結果と考察>

1 あなたは、学校が楽しいですか。

【設問1】 あなたは、学校が楽しいですか。
ア はい イ いいえ

◆校種別人数 (人)

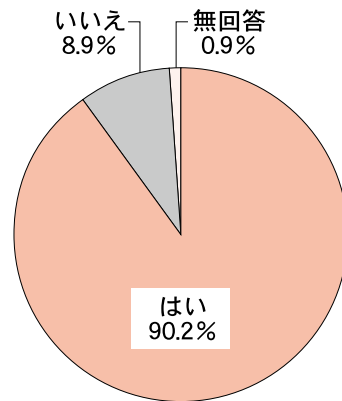
	小学校	中学校	高等学校	全体
はい	80,980	36,871	6,322	124,173
いいえ	6,117	5,252	854	12,223
※調査提出児童生徒数	87,920	42,602	7,199	137,721

※「調査提出児童生徒数」については、これ以降「調査提出数」と記する。

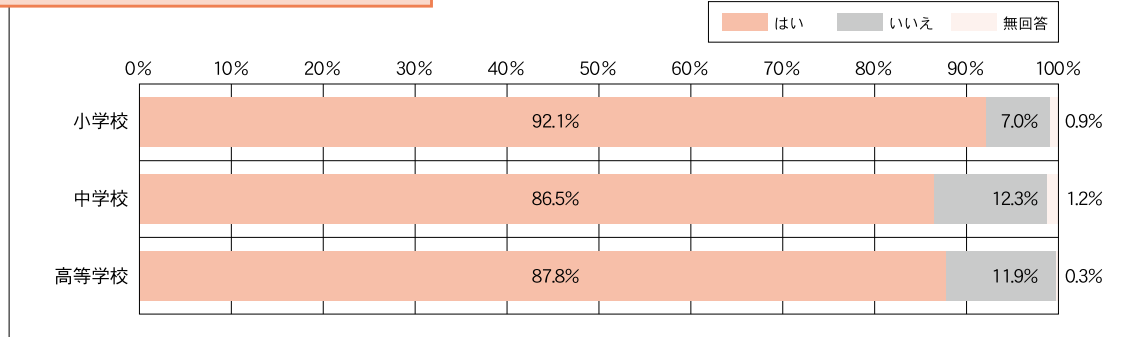
◆校種別割合 (%)

	小学校	中学校	高等学校	全体
はい	92.1%	86.5%	87.8%	90.2%
いいえ	7.0%	12.3%	11.9%	8.9%

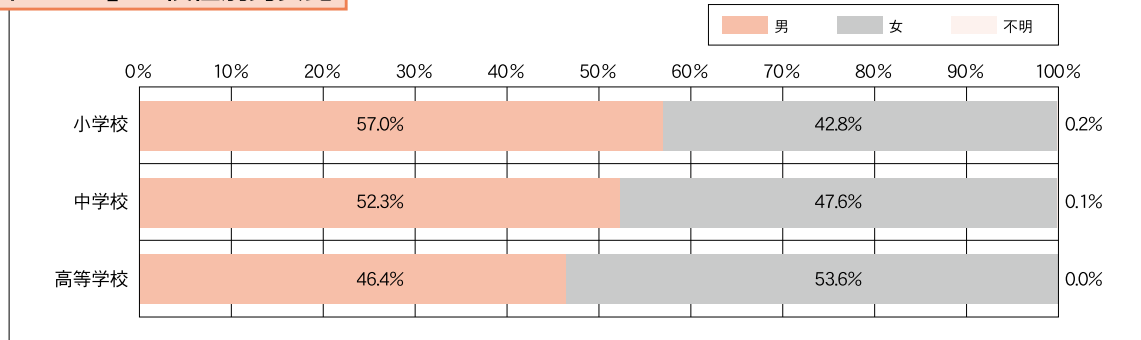
「はい」・「いいえ」の割合



「はい」・「いいえ」の校種別割合



「いいえ」の校種別男女比



平成26年度「悩みやいじめに関するアンケート調査」の分析結果について

◆学校が楽しいですかという質問に対する児童生徒の学年別回答数 (人)

	小学校						中学校			高等学校			合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	
はい	13,751	13,600	13,135	13,396	13,590	13,508	12,846	12,011	12,014	2,142	2,088	2,092	124,173
いいえ	605	747	916	984	1,319	1,546	1,586	1,793	1,873	279	267	308	12,223
調査提出数	14,438	14,470	14,177	14,525	15,101	15,209	14,565	13,949	14,088	2,427	2,367	2,405	137,721
「いいえ」の割合	4.2%	5.2%	6.5%	6.8%	8.7%	10.2%	10.9%	12.9%	13.3%	11.5%	11.3%	12.8%	8.9%

学校が楽しいですか？



考察

- ・【設問1】は、児童生徒が本アンケートに率直な気持ちで回答できるよう設定した。
- ・「学校が楽しいですか」の設問に対し、「いいえ」と回答した児童生徒の割合は昨年度とほぼ同じである。「いいえ」と回答する割合は、小学校低学年から徐々に高くなり、中学校3年生で最も高くなっている。思春期特有の悩み等の表れとも捉えることができるが、その背景は様々であると想定される。
- ・中学校・高等学校における最上級学年は、「進路選択」「受験」という不安や悩みを抱えることや、人間関係のトラブルや固定化、理想が上手く叶えられない現実に悩むこともあると考える。
- ・「学校が楽しい」ということが、精神的な安定に繋がり、いじめや不登校の未然防止につながることは言うまでもなく、学校と家庭が力を合わせて子どもが楽しいと感じる「魅力ある学校づくり」を進めていくことが大変重要である。

2 あなたは、今、何か悩んでいることはありますか。

【設問2】 あなたは、今、何か悩んでいることはありますか。
ア ある イ ない

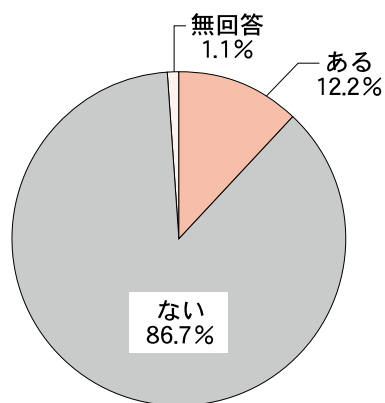
◆校種別人数 (人)

	小学校	中学校	高等学校	全体
ある	9,891	5,719	1,126	16,736
ない	77,113	36,251	6,009	119,373
調査提出数	87,920	42,602	7,199	137,721

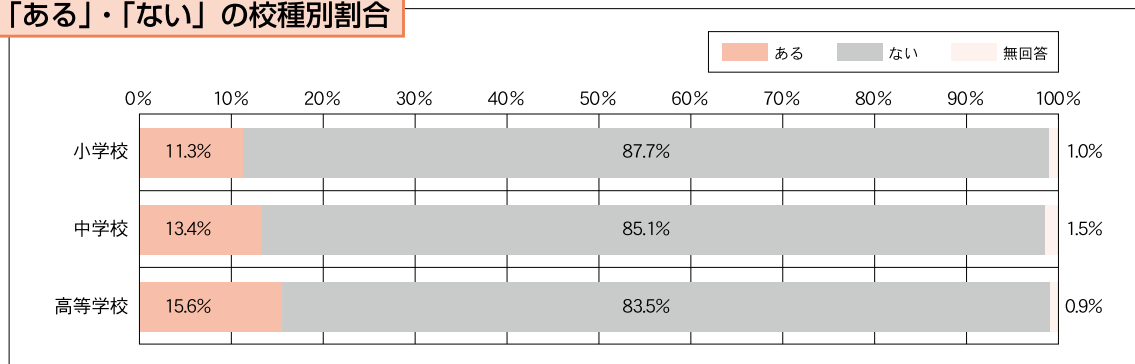
◆校種別割合 (%)

	小学校	中学校	高等学校	全体
ある	11.3%	13.4%	15.6%	12.2%
ない	87.7%	85.1%	83.5%	86.7%

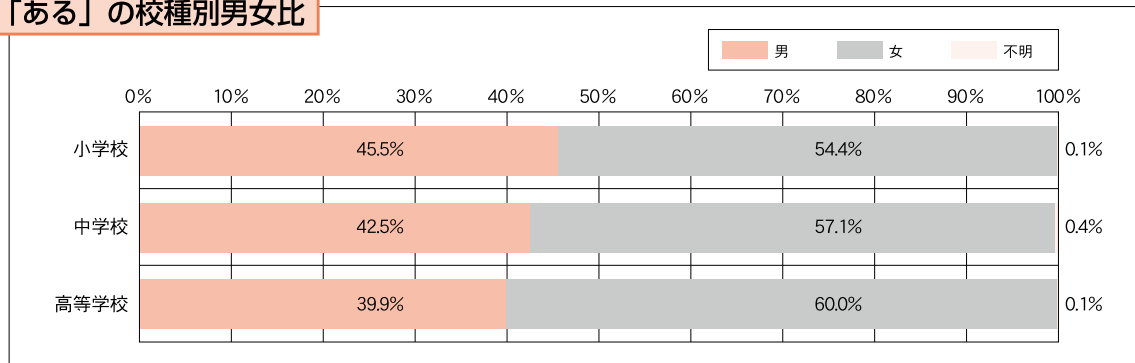
「ある」・「ない」の割合



「ある」・「ない」の校種別割合



「ある」の校種別男女比



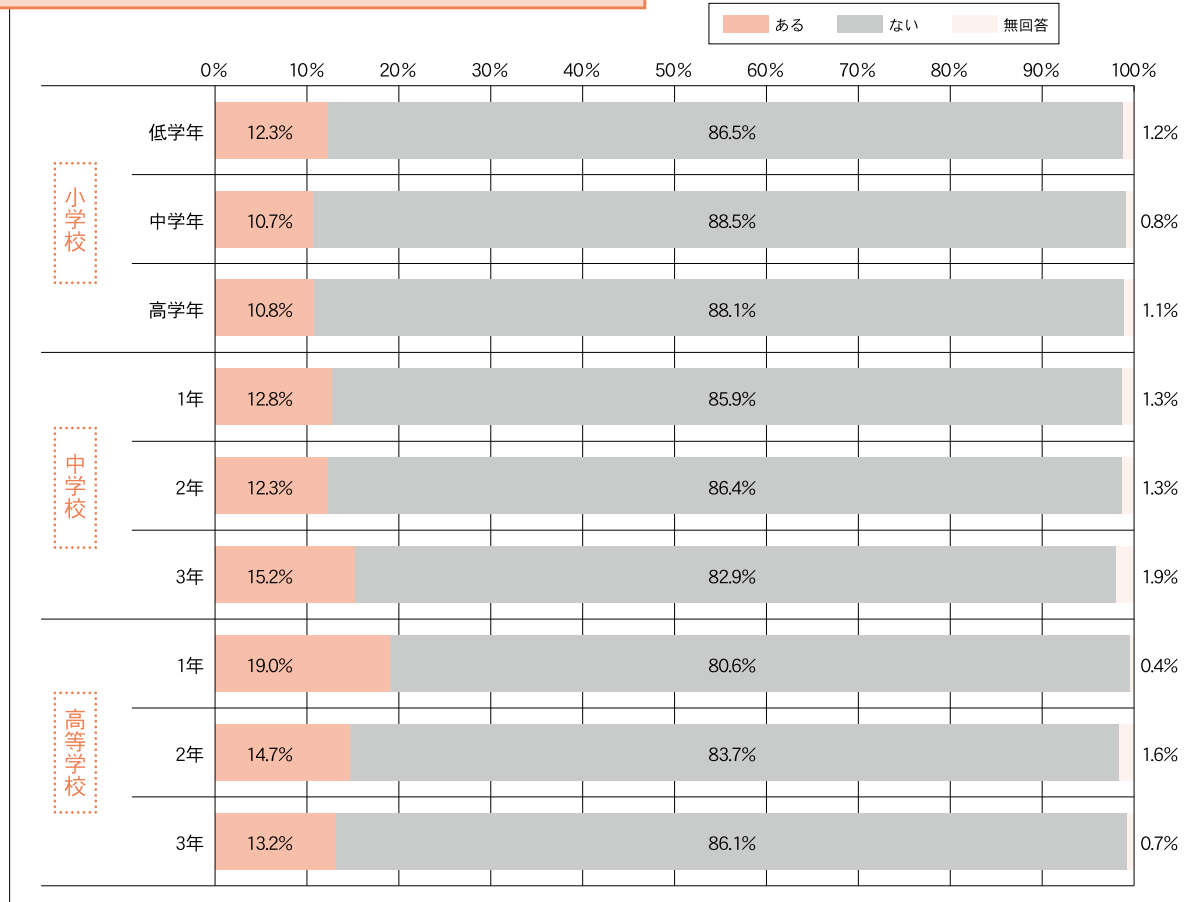
平成26年度「悩みやいじめに関するアンケート調査」の分析結果について

◆悩みごとの有無に対する児童生徒の学年別回答数

(人)

	小学校						中学校			高等学校			合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	
ある	1,856	1,706	1,490	1,577	1,624	1,638	1,861	1,716	2,142	461	347	318	16,736
ない	12,428	12,581	12,612	12,803	13,253	13,436	12,516	12,053	11,682	1,957	1,982	2,070	119,373
調査提出数	14,438	14,470	14,177	14,525	15,101	15,209	14,565	13,949	14,088	2,427	2,367	2,405	137,721
「ある」の割合	12.9%	11.8%	10.5%	10.9%	10.8%	10.8%	12.8%	12.3%	15.2%	19.0%	14.7%	13.2%	12.2%

あなたは、今、何か悩んでいることはありますか



考察

- ・【設問2】「あなたは、今、悩んでいることがありますか」の設問に「ある」と回答した児童生徒の割合は、高校1年生で最も高くなっている。昨年度に比べ、「ある」と回答した生徒は小学校と中学校でわずかではあるが増加している。また、昨年度と同様、どの校種においても、女子の方が「悩みがある」と回答した割合が高い。
- ・「ある」と回答した児童生徒は、記述欄にその内容を書き込めるようになっており、学校はその記載内容をもとに、スクールカウンセラーなど複数の教職員の視点でアンケート用紙そのものを分析して読み取り、子どもの心の内面に迫る努力をする事が重要である。

3 あなたは、今の学年になってから、いじめられたことがありますか。

【設問3】 あなたは、今の学年になってから、いじめられたことがありますか。
ア ある イ ない

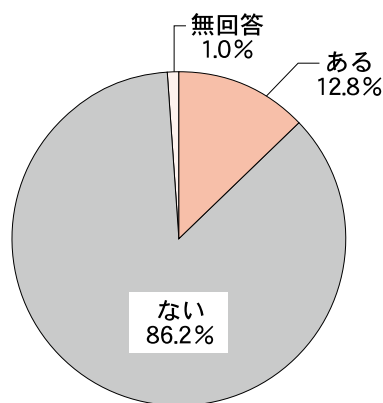
◆校種別人数 (人)

	小学校	中学校	高等学校	全体
ある	15,739	1,790	45	17,574
ない	71,187	40,424	7,101	118,712
調査提出数	87,920	42,602	7,199	137,721

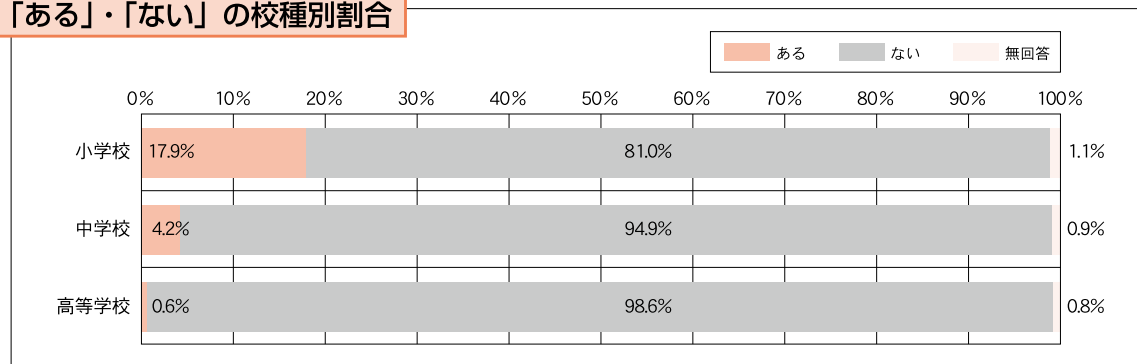
◆校種別割合 (%)

	小学校	中学校	高等学校	全体
ある	17.9%	4.2%	0.6%	12.8%
ない	81.0%	94.9%	98.6%	86.2%

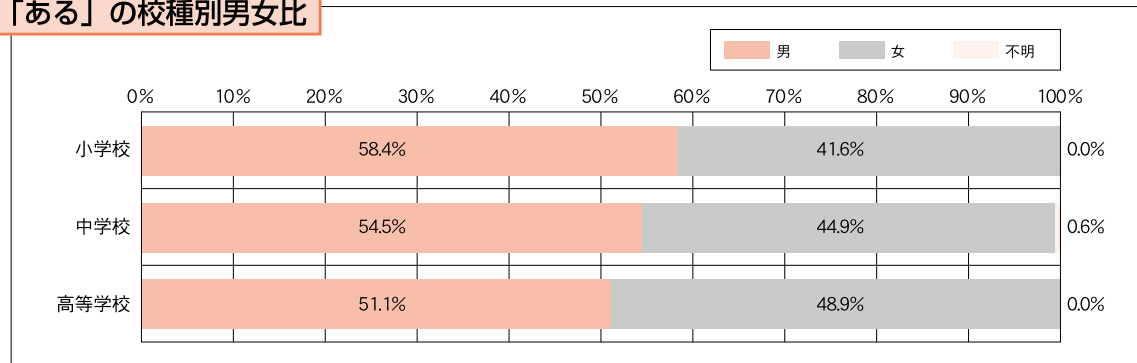
「ある」・「ない」の割合



「ある」・「ない」の校種別割合



「ある」の校種別男女比

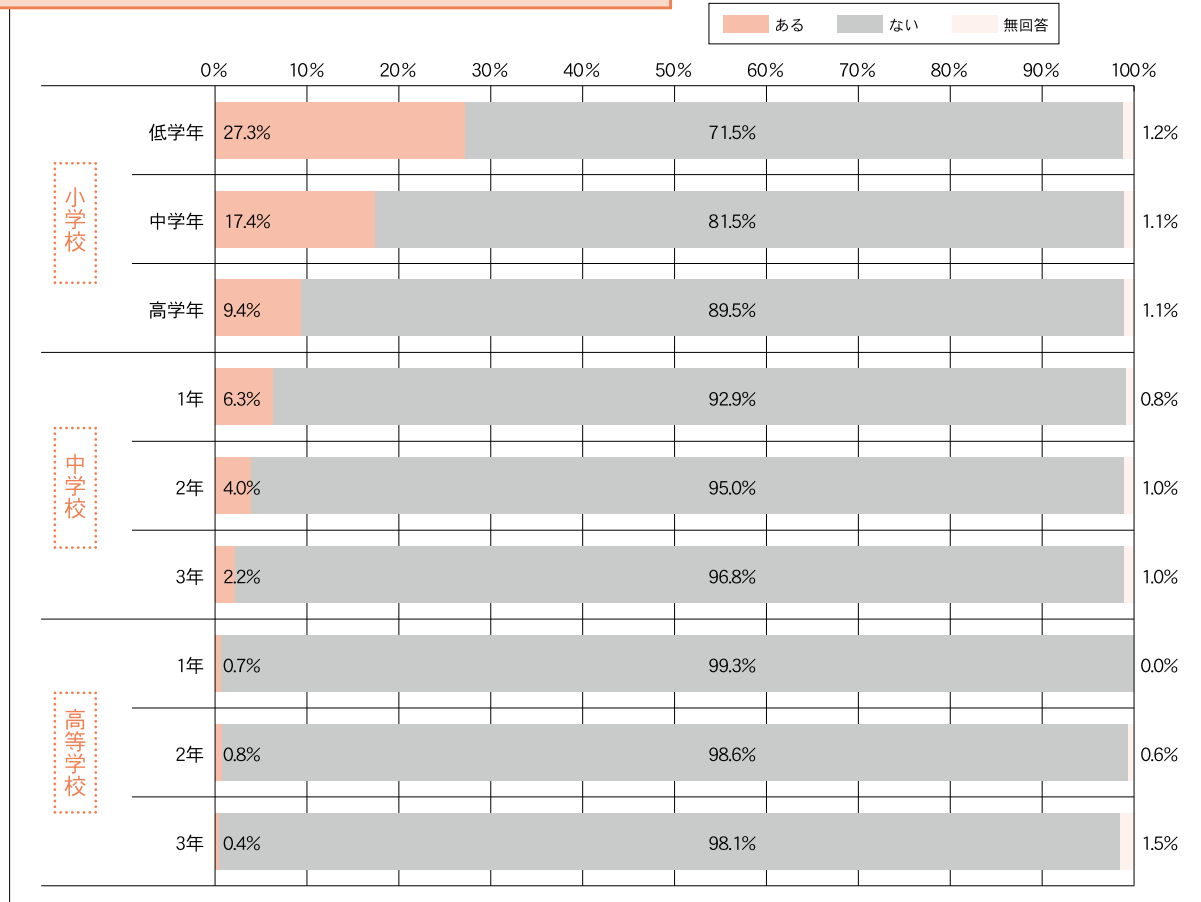


平成26年度「悩みやいじめに関するアンケート調査」の分析結果について

◆今の学年になってからのいじめの有無に対する児童生徒の学年別回答数 (人)

	小学校						中学校			高等学校			合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	
ある	4,315	3,583	2,734	2,267	1,637	1,203	918	556	316	17	18	10	17,574
ない	10,017	10,654	11,310	12,090	13,184	13,932	13,538	13,251	13,635	2,409	2,333	2,359	118,712
調査提出数	14,438	14,470	14,177	14,525	15,101	15,209	14,565	13,949	14,088	2,427	2,367	2,405	137,721
「ある」の割合	29.9%	24.8%	19.3%	15.6%	10.8%	7.9%	6.3%	4.0%	2.2%	0.7%	0.8%	0.4%	12.8%

今の学年になってから、いじめられたことがあるか



考察

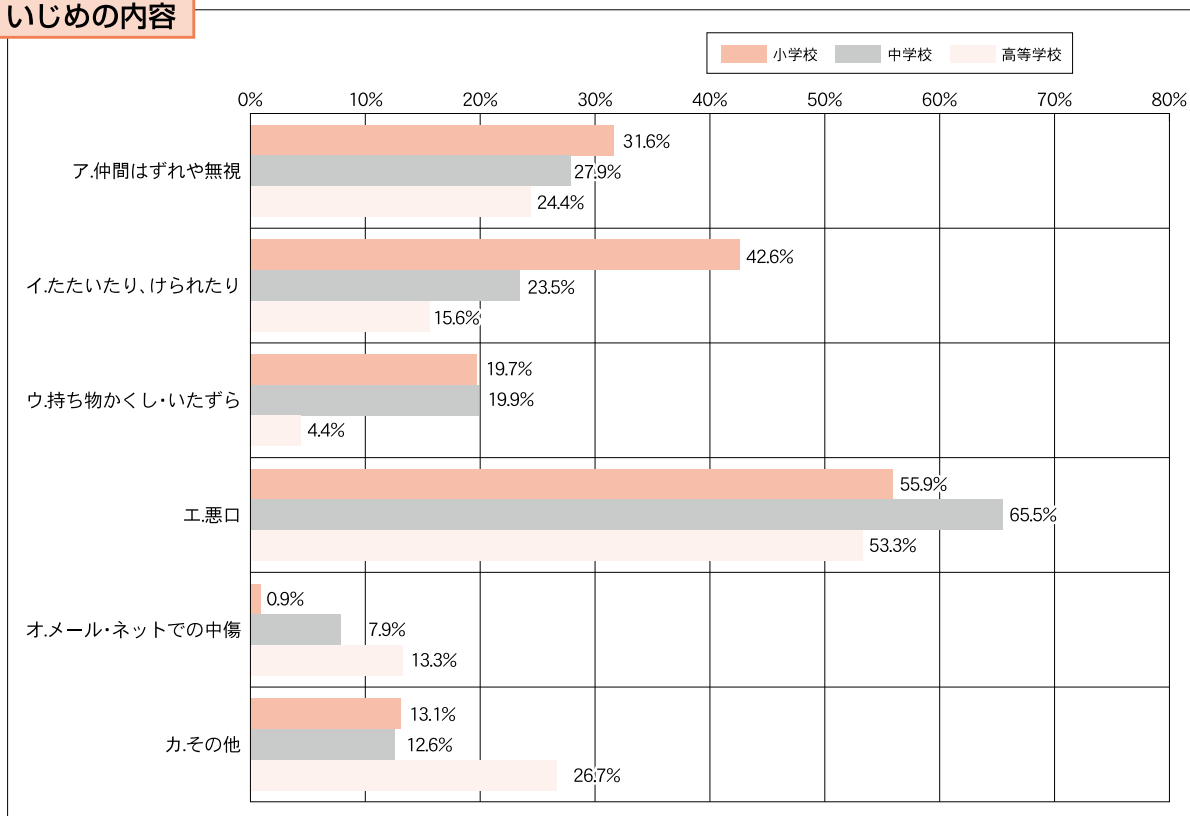
- ・「今の学年になってから、いじめられたことがある」と回答した児童生徒の総数は17,574人であり、昨年度と比較すると990人増である。そのうち、888人は小学校である。
- ・「いじめ問題」に対して、社会全体の関心が高いことなどが影響していたと思われるが、各学校における未然防止や早期発見・早期対応など、いじめをなくす取組を積極的に実施していることにより、児童生徒がいじめの訴えをしやすくなったことなどが増加の要因として考えられる。
- ・学年が上がるにつれ、「ある」と回答する割合が低くなる傾向にあり、これは「いじめ」に対する捉え、認識の変化が影響していると考えられる。小学校低学年では、些細なけんかでも「いじめ」として捉えることが多く、集団生活での経験を積み重ねていくことによって、他者の心情を察することができるようになったり、自分の気持ちを言葉にして表現することができるようになったりすることも影響していると考えられる。しかし、思春期特有の感情から、調査に率直に回答していない人数も増えていることも考えられ、発達の段階に応じた対応や指導が必要である。
- ・調査時に「ある」と回答した子どもについては、その後、各学校で事実確認するなどの対応を行い、いじめが解消したりするなど、99.8%が解決している。

- 4 今の学年になってから、いじめられたことが“ある”と答えた人に聞きます。どんないじめですか。

【設問 4】 設問 3で「ア ある」と答えた人に聞きます。それはどんないじめですか。(複数回答)

- ア 仲間はずれや無視をされる
- イ たたかれたり、けられたりする
- ウ 持ち物をかくされたり、いたずらされたりする
- エ 悪口を言われる
- オ 傷つく内容のメールが送られてきたり、インターネットに書きこまれたりする
- カ その他

いじめの内容



考察

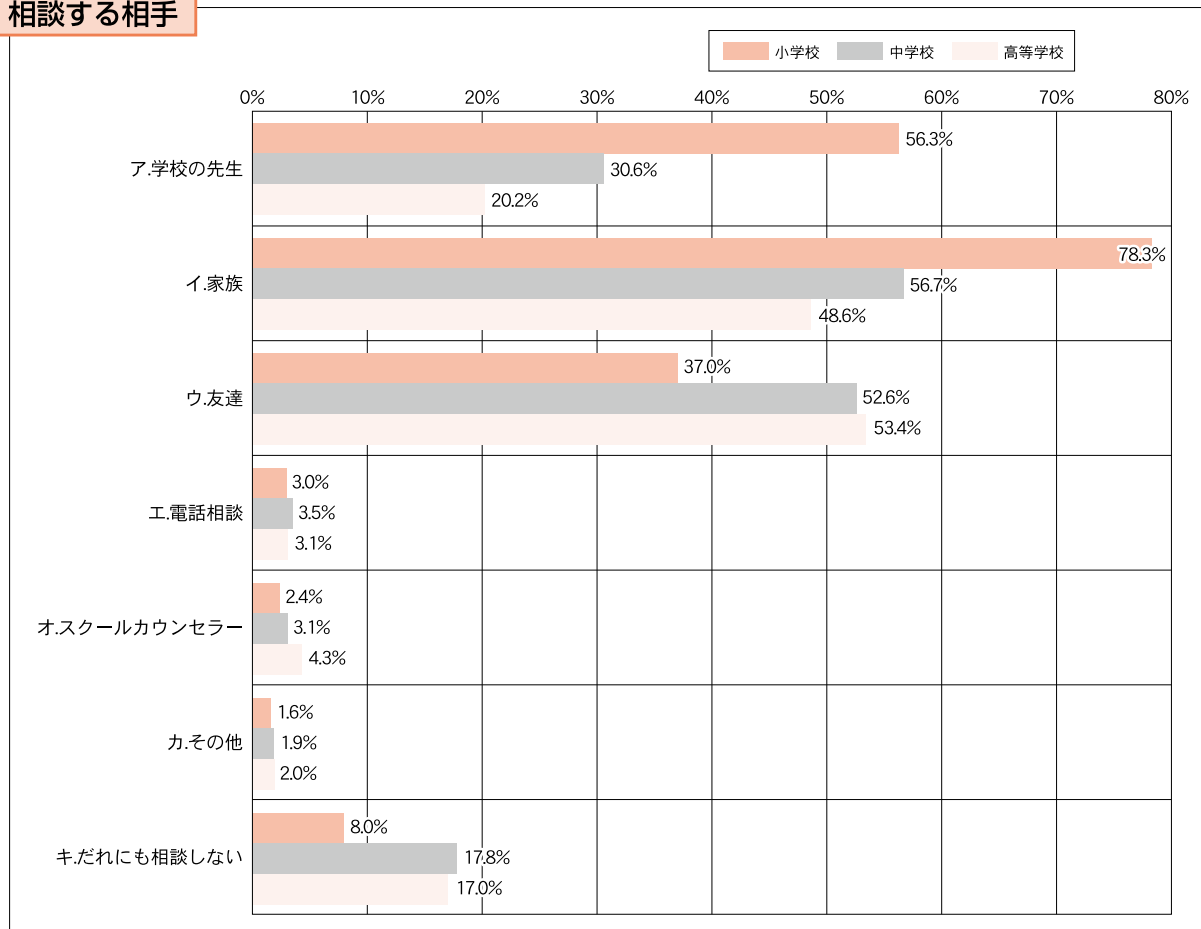
- ・どの校種においても「悪口を言われる」の割合が最も高く、次いで小学校では「たたいたり、けられたりする」、中学校では「仲間はずれや無視をされる」となっている。
- ・「メール、ネットでの中傷」については、全体的には昨年度から若干減少しているが、各校種、各学年で見えていくと、学齢が上がるにつれその割合は徐々に高くなっている。生活年齢が上がるにつれて、仲間外れや暴力、いたずらの割合が下がることから、相対的にメール、ネットでの中傷の占める割合が高くなっていると考えられる。
- ・「その他」についての割合が小、中学校とも1割以上あり、高校では3割近くあることは見逃せない。面談等で、その内容の詳細を把握し、きめ細かな対応につなげていくことが大切である。

5 あなたは、自分がいじめられたら、誰に相談しますか。

【設問5】 あなたは、自分がいじめられたら、誰に相談しますか。(複数回答)

- ア 学校の先生 イ 家族 ウ 友達
- エ 電話相談 オ スクールカウンセラー カ その他
- キ だれにも相談しない

相談する相手



- ・この設問に関しては昨年度とほぼ同様の状況である。「だれにも相談しない」割合は、昨年度より小学校で0.6%、中学校で1%増加しており、高等学校で0.9%減少している。また、中学校・高等学校になると、2割近い生徒が「だれにも相談しない」としており、悩みを自分一人で抱え込む傾向が強くなると考えられ、喫緊の課題と捉える。
- ・「だれにも相談しない」と回答した児童生徒への働きかけとして、スクールカウンセラーや外部の相談機関に関する情報を提供するとともに、子ども同士が互いに支え合い助け合える関係づくりを進めていけるような教育活動が必要である。
- ・「学校の先生」に相談する割合は、小学校から高等学校にかけて徐々に低くなる傾向にある。逆に友人に相談する割合は、小学校が低く、中学校と高校が高い。年齢を重ねていくうちに、時間を共有する相手が変わっていくことの影響が大きいと考えられる。
- ・「家族」に相談する割合は、小・中学校において最も高く、高等学校においても「友達」に次いで相談する相手となっている。

- 6 今の学年になってから、いじめられたことが“ある”と答えた人に聞きます。今もいじめられていますか。

【設問6】 設問3で「ア ある」と答えた人に聞きます。今もいじめられていますか。
 ア いじめられている イ いじめられていない

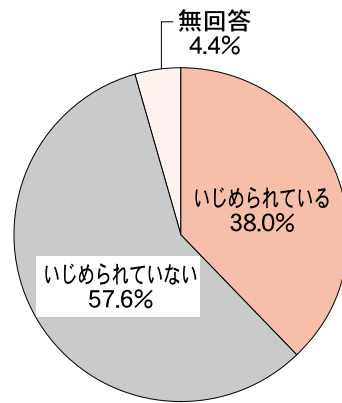
◆校種別人数 (人)

	小学校	中学校	高等学校	全体
いじめられている	6,159	514	13	6,686
いじめられていない	8,952	1,135	29	10,116
設問3アの回答数	15,739	1,790	45	17,574

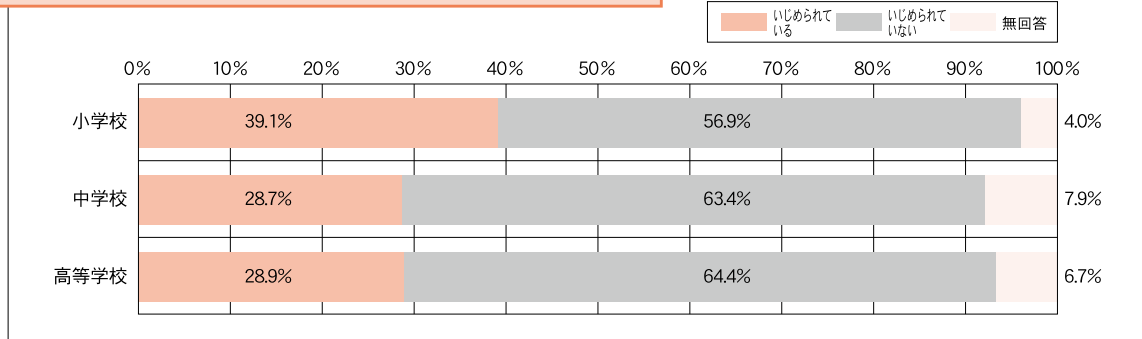
◆校種別割合 (%)

	小学校	中学校	高等学校	全体
いじめられている	39.1	28.7	28.9	38.0
いじめられていない	56.9	63.4	64.4	57.6

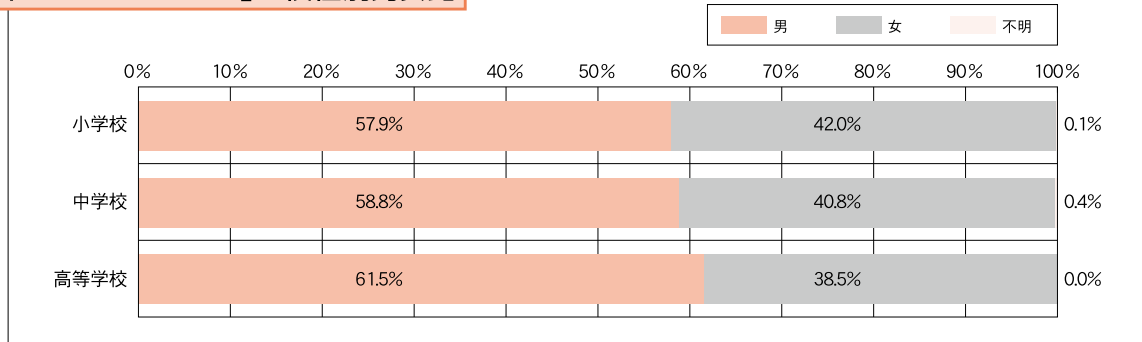
「いじめられている」・「いじめられていない」の割合



「いじめられている」・「いじめられていない」の校種別割合



「いじめられている」の校種別男女比



平成26年度「悩みやいじめに関するアンケート調査」の分析結果について

◆今現在のいじめに対する児童生徒の学年別回答数

(人)

	小学校						中学校			高等学校			合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	
いじめられている	1,634	1,528	1,164	861	606	366	265	179	70	1	6	6	6,686
いじめられていない	2,559	1,978	1,498	1,274	919	724	616	345	174	14	11	4	10,116
設問3アの回答数	4,315	3,583	2,734	2,267	1,637	1,203	918	556	316	17	18	10	17,574
いじめられている割合	37.9%	42.6%	42.6%	38.0%	37.0%	30.4%	28.9%	32.2%	22.2%	5.9%	33.3%	60.0%	38.0%

今もいじめられているか



考察

- ・【設問3】で「今の学年になってから、いじめられたことがある」と回答した児童生徒のうち、「今もいじめられている」と回答した割合は、昨年度36.5%、今年度38.0%と若干増加している。今年度は高校1年生の割合が低く、高校3年生の割合が高くなっているが、回答数自体が少ないため、傾向や要因として捉えることは難しい。
- ・いじめは見えにくい形で進行していくものであり、学校は子どものわずかな変化やサインを見逃さない、見落とさないという姿勢が大切であり、また、子どもとの教育相談に複数の教職員が関わるができる教育相談体制の構築が重要である。
- ・中学3年生で無回答の割合が22.7%と高いことは、回答すること自体に迷いや悩みをもっているとも考えられ、個別にアセスメントを行うなど留意すべき状況と捉える。

7 あなたは、今の学年になってから、いじめられている人を見たり、聞いたりしたことがありますか。

【設問7】 あなたは、今の学年になってから、いじめられている人を見たり、聞いたりしたことがありますか。
ア ある イ ない

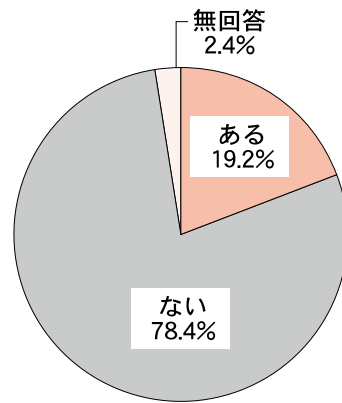
◆校種別人数 (人)

	小学校	中学校	高等学校	全体
ある	21,610	4,668	173	26,451
ない	64,252	36,985	6,783	108,020
調査提出数	87,920	42,602	7,199	137,721

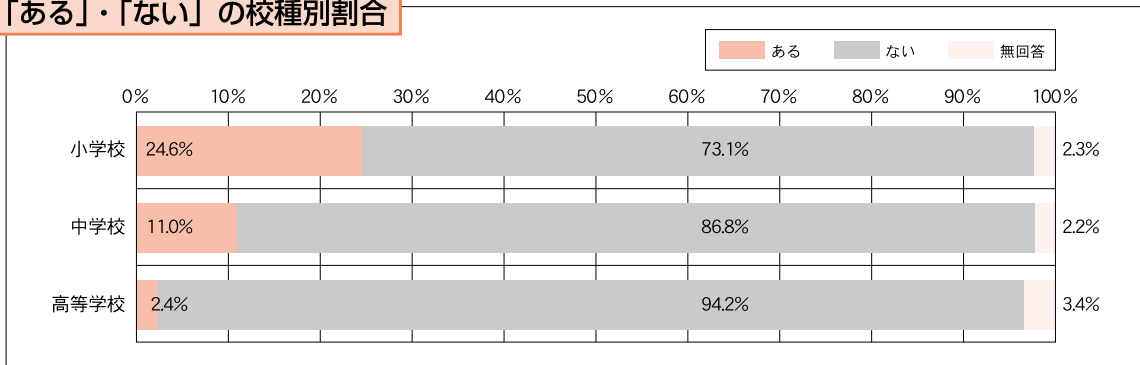
◆校種別割合 (%)

	小学校	中学校	高等学校	全体
ある	24.6	11.0	2.4	19.2
ない	73.1	86.8	94.2	78.4

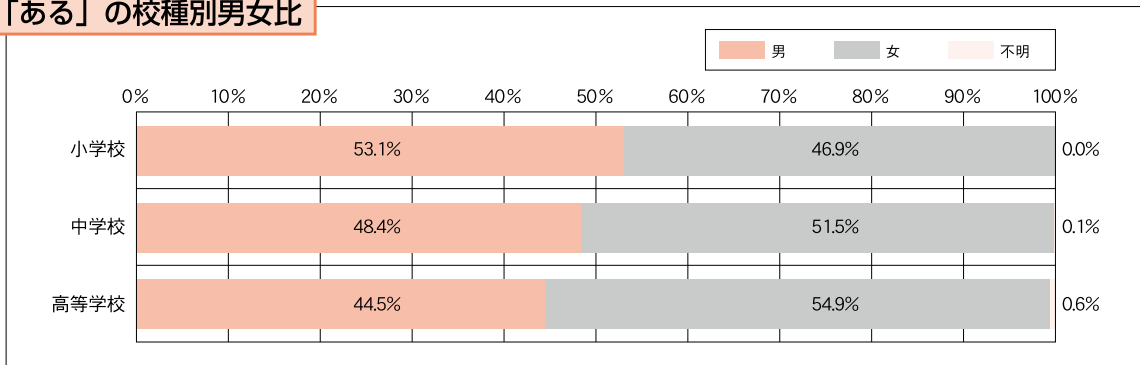
「ある」・「ない」の割合



「ある」・「ない」の校種別割合



「ある」の校種別男女比

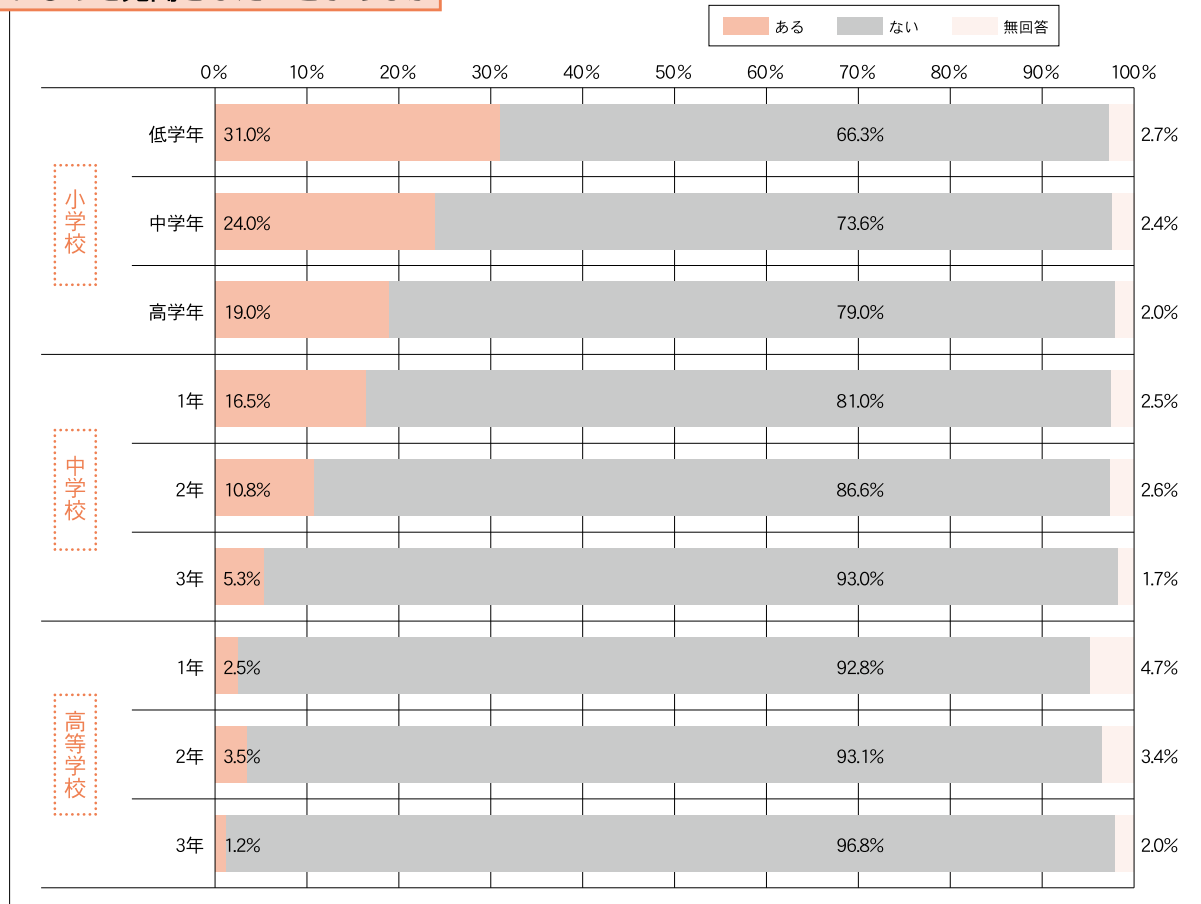


平成26年度「悩みやいじめに関するアンケート調査」の分析結果について

◆いじめを見聞きしたことがあるかという質問に対する児童生徒の学年別回答数 (人)

	小学校						中学校			高等学校			合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	
ある	4,611	4,350	3,489	3,386	2,989	2,785	2,410	1,510	748	60	84	29	26,451
ない	9,483	9,689	10,322	10,809	11,773	12,176	11,794	12,085	13,106	2,252	2,203	2,328	108,020
調査提出数	14,438	14,470	14,177	14,525	15,101	15,209	14,565	13,949	14,088	2,427	2,367	2,405	137,721
「ある」の割合	31.9%	30.1%	24.6%	23.3%	19.8%	18.3%	16.5%	10.8%	5.3%	2.5%	3.5%	1.2%	19.2%

いじめを見聞きしたことがあるか



考察

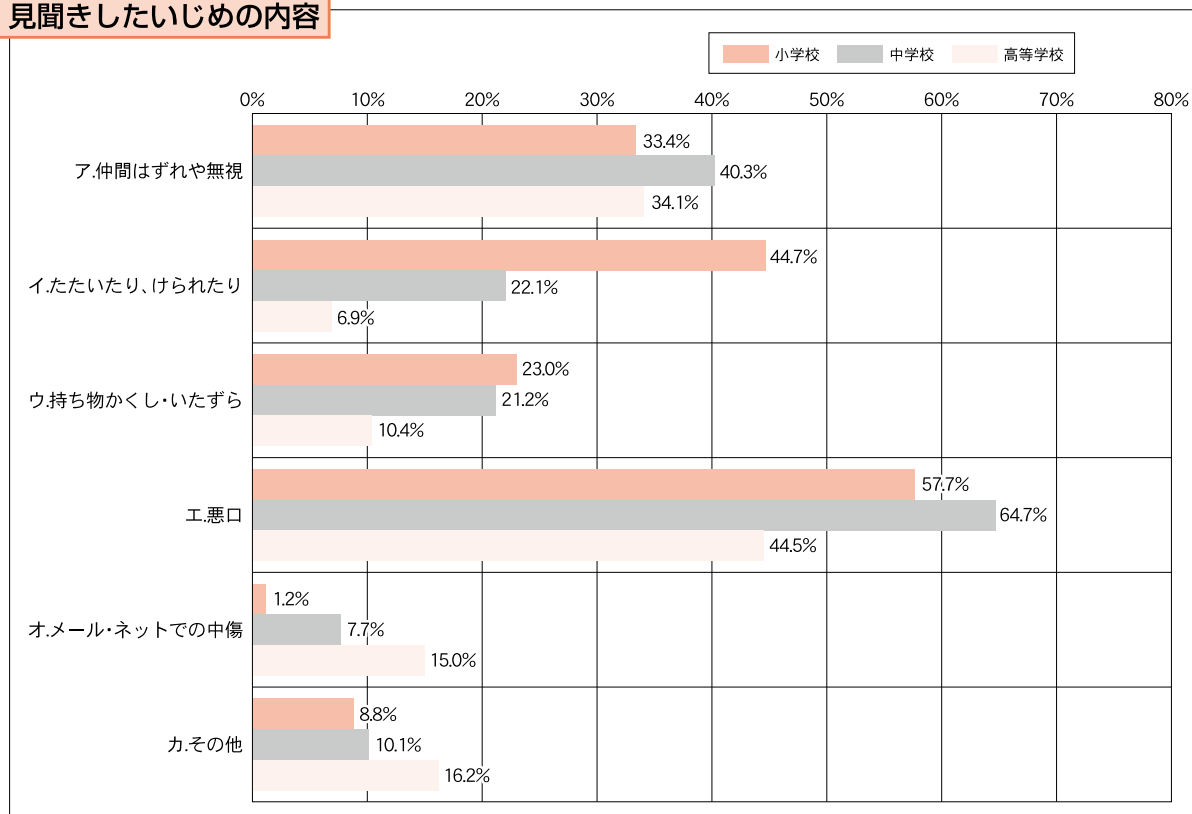
- ・「ある」と回答した割合は、全校種で昨年度とほぼ同じであった。また、年齢が上がるにつれ低くなっていくのは、昨年度と同様の傾向である。
- ・「今の学年になってから、いじめられたことがある」と回答した児童生徒数は17,574人、「今もいじめられている」と回答した児童生徒数は6,686人、「いじめを見聞きしたことがある」と回答した児童生徒数は26,451人である。いじめを見聞きしている数がいじめを受けた、受けている数を大きく上回ることから、児童生徒との日常の関わりから学級の状況や人間関係についての情報を集め、未然防止・早期発見につなげていくことが重要である。
- ・「今もいじめられている」の学年別回答数とリンクしないことに注目する必要がある。

- 8 今の学年になってから、いじめられている人を見たり、聞いたりしたことが“ある”と答えた人に聞きます。それはどんないじめですか。

【設問8】 設問7で「ア ある」と答えた人に聞きます。それはどんないじめですか。(複数回答)

- ア 仲間はずれや無視をされる
- イ たたかれたり、けられたりする
- ウ 持ち物をかくされたり、いたずらされたりする
- エ 悪口を言われる
- オ 傷つく内容のメールが送られてきたり、インターネットに書きこまれたりする
- カ その他

見聞きしたいじめの内容



考察

- ・全ての校種において、「悪口を言われる」を見聞きしている割合が最も高く、次いで小学校では「たたかれたり、けられたり」、中学校、高校では「仲間はずれや無視をされる」の割合が高い。
- ・児童生徒の日常生活を複数の教職員による視点で注意深く見守り、教職員間の情報共有を密にすることにより、早期発見・早期対応につなげていくことが大切である。
- ・「メール、ネットでの中傷」は、全校種で若干の減少が見られたが、依然として、特に高校で割合が高い。スマートフォンの普及により、グループ内のメールのやりとりを見られることが少なからず影響していると考えられる。インターネットの利用形態については多様で、その対応には苦慮するところではあるが、今後もネットパトロールによって不適切な書き込みを早期に発見し、指導・対応を進める。
- ・未然防止に向けて、情報モラルの指導とともに、メールやネットの適切な使用方法などを考えさせる指導も必要である。
- ・【設問4】同様、「その他」については、その詳細を確認し、きめ細かな対応につなげていくことが大切である。

＜学校への調査の結果と分析＞

1 (1) 「今の学年になってから、いじめられたことがある」と答えた児童生徒数と、「いじめられている疑いがある」と教師がとらえた児童生徒数

【設問 1 (1)】 児童生徒の「悩みやいじめに関するアンケート」の設問 1 において、「今の学年になってから、いじめられたことがある」と回答した児童生徒以外で、いじめられている疑いがあるとおもわれる児童生徒は何人いますか。

	小学校1年生				小学校2年生				小学校3年生			
	男子	女子	不明	合計	男子	女子	不明	合計	男子	女子	不明	合計
いじめられたことがあると回答した児童生徒数(人)	2,444	1,871	0	4,315	2,111	1,471	1	3,583	1,638	1,096	0	2,734
上記以外で教師がいじめの疑いがあるとしてとらえている数(人)	4	3	0	7	5	3	0	8	3	8	0	11
合計(人)	2,448	1,874	0	4,322	2,116	1,474	1	3,591	1,641	1,104	0	2,745

	小学校4年生				小学校5年生				小学校6年生				小計			
	男子	女子	不明	合計	男子	女子	不明	合計	男子	女子	不明	合計	男子	女子	不明	合計
いじめられたことがあると回答した児童生徒数(人)	1,343	923	1	2,267	990	644	3	1,637	658	545	0	1,203	9,184	6,550	5	15,739
上記以外で教師がいじめの疑いがあるとしてとらえている数(人)	7	8	0	15	22	13	0	35	16	20	0	36	57	55	0	112
合計(人)	1,350	931	1	2,282	1,012	657	3	1,672	674	565	0	1,239	9,241	6,605	5	15,851

	中学校1年生				中学校2年生				中学校3年生				小計			
	男子	女子	不明	合計	男子	女子	不明	合計	男子	女子	不明	合計	男子	女子	不明	合計
いじめられたことがあると回答した児童生徒数(人)	542	375	1	918	283	265	8	556	151	164	1	316	976	804	10	1,790
上記以外で教師がいじめの疑いがあるとしてとらえている数(人)	39	37	0	76	30	33	0	63	15	21	0	36	84	91	0	175
合計(人)	581	412	1	994	313	298	8	619	166	185	1	352	1,060	895	10	1,965

	高等学校1年生				高等学校2年生				高等学校3年生				小計			
	男子	女子	不明	合計	男子	女子	不明	合計	男子	女子	不明	合計	男子	女子	不明	合計
いじめられたことがあると回答した児童生徒数(人)	6	11	0	17	10	8	0	18	7	3	0	10	23	22	0	45
上記以外で教師がいじめの疑いがあるとしてとらえている数(人)	0	0	0	0	1	1	0	2	0	0	0	0	1	1	0	2
合計(人)	6	11	0	17	11	9	0	20	7	3	0	10	24	23	0	47

	総合計							
	男子	女子	不明	小学校	中学校	高等学校	合計	
いじめられたことがあると回答した児童生徒数(人)	10,183	7,376	15	15,739	1,790	45	17,574	
上記以外で教師がいじめの疑いがあるとしてとらえている数(人)	142	147	0	112	175	2	289	
合計(人)	10,325	7,523	15	15,851	1,965	47	17,863	



・「今の学年になってから、いじめられたことがある」と回答した児童生徒は、昨年度16,584人、今年度17,574人と、990人の増加であった。教師がいじめの疑いがあると捉えている件数は、昨年度274件、今年度289件と、15件の増加であった。今後も教師がいじめや子どものわずかな変化やサインに気付き、声をかけていく資質を高めていくことが重要である。また、教師がいじめの疑いがあると捉えている場合は、早期に面談等により事実関係を把握し、いじめられている子どもの立場に立って、安心して生活できる生活環境を整えることができるよう、児童生徒への指導、家族との連携などを密にしていけることが重要である。また、悩みや不安を抱えている児童生徒が相談しやすい環境づくりや、日常からの人間関係づくりにも一層取り組んでいくことが必要とされている。

(2) いじめられている疑いがある児童生徒を把握した手だて

【設問 1 (2)】 いじめられている疑いがある児童生徒の人数をどのような手だてで把握しましたか。(複数回答)

- ア 教師の観察によって把握した
- イ 本人ではない児童生徒からの教師への直接の訴えにより把握した
- ウ 保護者からの訴えにより把握した
- エ スクールカウンセラーからの報告により把握した
- オ その他

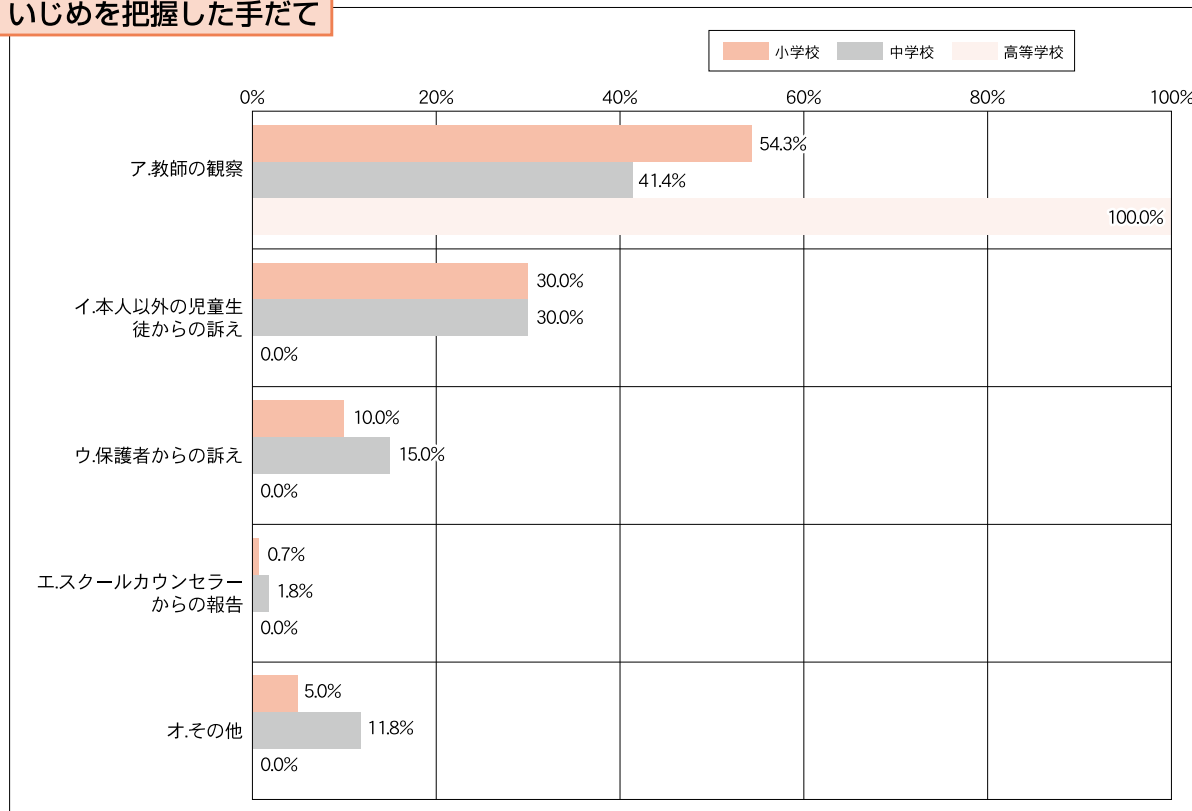
◆校種別件数 (件)

	小学校	中学校	高等学校	全体
ア	76	91	2	169
イ	42	66	0	108
ウ	14	33	0	47
エ	1	4	0	5
オ	7	26	0	33
総件数	140	220	2	362

◆校種別割合 (%)

	小学校	中学校	高等学校	全体
ア	54.3	41.4	100.0	46.7
イ	30.0	30.0	0.0	29.8
ウ	10.0	15.0	0.0	13.0
エ	0.7	1.8	0.0	1.4
オ	5.0	11.8	0.0	9.1
総件数	100.0	100.0	100.0	100.0

いじめを把握した手だて



2 いじめ問題へのこれまでの取組と今後の取組

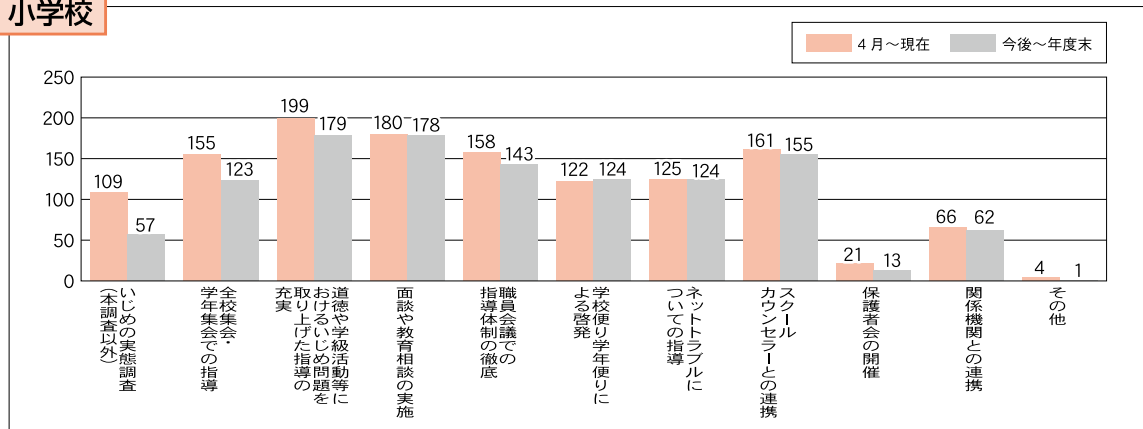
- 【設問2】 いじめ問題にかかわり、これまでどのような取組をしてきましたか。また、今後どのような取組を予定していますか。(複数回答)
- 1 いじめの実態調査(本調査以外のもので)
 - 2 全校集会・学年集会での指導
 - 3 道徳や学級(ホームルーム)活動等におけるいじめ問題を取り上げた指導の充実
 - 4 面談や教育相談の実施
 - 5 職員会議での指導体制の徹底
 - 6 学校便り学年便りによる啓発
 - 7 ネットいじめ(トラブル)についての指導
 - 8 スクールカウンセラーとの連携
 - 9 保護者会の開催
 - 10 関係機関との連携
 - 11 その他



- ・ 中学校、高校では、「面談や教育相談の実施」、「スクールカウンセラーとの連携」の数値が高く、小学校では、「道徳や学級活動等における指導の充実」、「面談や教育相談の充実」の数値が多い。また、「いじめの実態調査(本調査以外)」を行ったとの回答数が大きく増えた。これは、本調査も含めた実態調査を複数回行い、よりきめ細かにいじめの実態を含めた子どもの不安や悩みを受け止めようと努めていると捉えることができる。
- ・ スクールカウンセラーとの連携をより密にし、専門家からのアセスメントや助言等を児童生徒への指導に活かしていくことがより重要性を増していくものと考えられる。
- ・ 今後は、道徳や学級活動等におけるいじめ問題を取り上げた指導を通し、未然防止に向けた取組のさらなる充実が望まれる。
- ・ また、「保護者会の開催」、「学校便り、学年便りによる啓発」の回答数が、他の項目と比較して少ないことから、学校と保護者がより一層連携し、いじめの未然防止、早期発見・早期対応の取組を進めていくことが重要である。

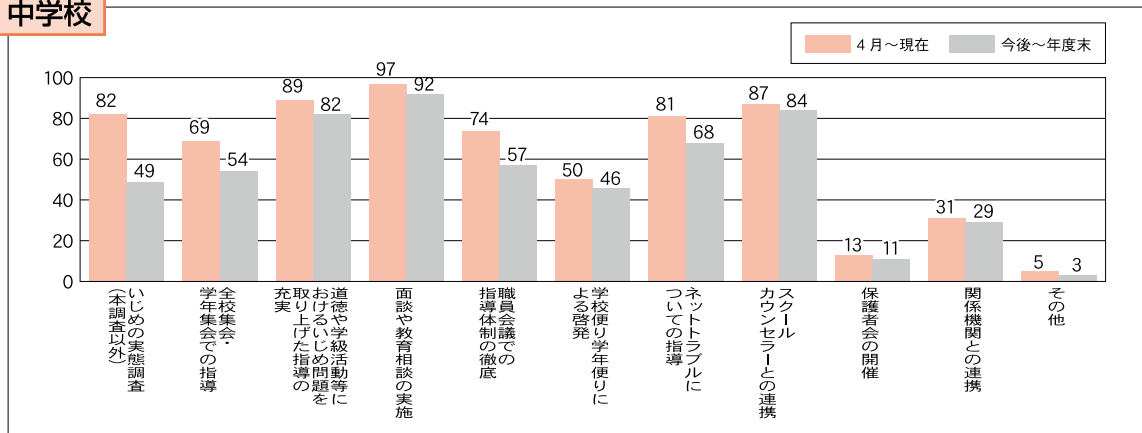
小学校	4月～現在	今後～年度末
1	109	57
2	155	123
3	199	179
4	180	178
5	158	143
6	122	124
7	125	124
8	161	155
9	21	13
10	66	62
11	4	1

小学校



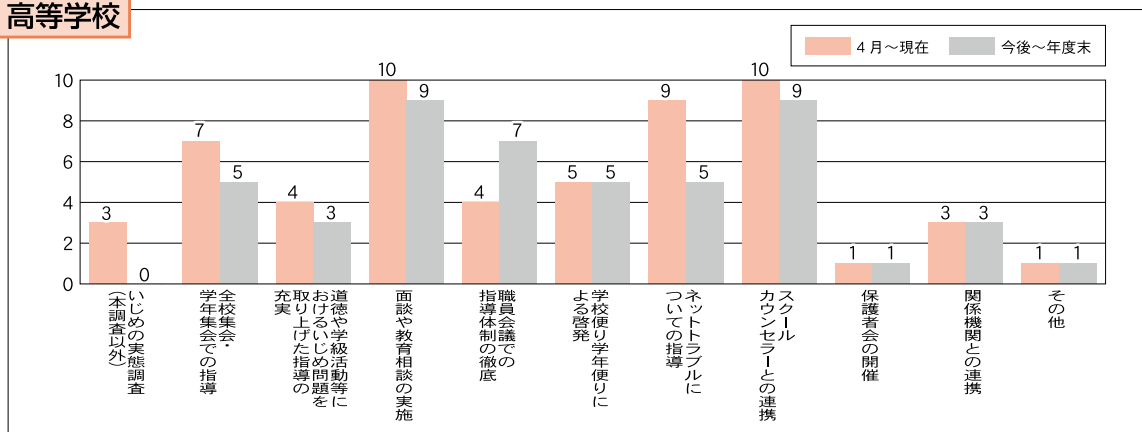
中学校		4月～現在	今後～年度末
1	いじめの実態調査(本調査以外)	82	49
2	全校集会・学年集会での指導	69	54
3	道徳や学級(ホームルーム)活動等におけるいじめ問題を取り上げた指導の充実	89	82
4	面談や教育相談の実施	97	92
5	職員会議での指導体制の徹底	74	57
6	学校便り学年便りによる啓発	50	46
7	ネットいじめ(トラブル)についての指導	81	68
8	スクールカウンセラーとの連携	87	84
9	保護者会の開催	13	11
10	関係機関との連携	31	29
11	その他	5	3

中学校



高等学校		4月～現在	今後～年度末
1	いじめの実態調査(本調査以外)	3	0
2	全校集会・学年集会での指導	7	5
3	道徳や学級(ホームルーム)活動等におけるいじめ問題を取り上げた指導の充実	4	3
4	面談や教育相談の実施	10	9
5	職員会議での指導体制の徹底	4	7
6	学校便り学年便りによる啓発	5	5
7	ネットいじめ(トラブル)についての指導	9	5
8	スクールカウンセラーとの連携	10	9
9	保護者会の開催	1	1
10	関係機関との連携	3	3
11	その他	1	1

高等学校



平成26年度札幌市研究開発事業
「豊かな心の育成」に係る実践研究会

【児童生徒向けいじめ防止リーフレット作成部会】

清田緑小学校	校長	角 田 成 子
平岸高台小学校	教諭	近 藤 伸 明
手稲宮丘小学校	教諭	有 賀 智 哉
札幌中学校	教諭	和 田 圭 吾
厚別北中学校	教諭	金 子 理 樹
新川高等学校	教諭	畠 山 正 樹

【教職員向け指導資料作成部会】

中島中学校	教頭	長谷川 正 人
幌南小学校	教諭	加 瀬 富 久
北九条小学校	教諭	渡 辺 一 生
石山東小学校	養護教諭	森 ひとみ
北辰中学校	教諭	新 谷 和 彦
中の島中学校	教諭	原 田 之 彦
柏丘中学校	教諭	吉 田 裕 次
米里中学校	教諭	渡 辺 千 明
北野中学校	教諭	大久保 俊 博
平岸高等学校	教諭	池 田 吉 利

※所属校・職名は平成27年3月現在

生徒指導第14集

いじめ問題への対応 第三版

平成7年(1995年)3月	第一版発行	編集	札幌市教育委員会児童生徒担当課
平成20年(2008年)3月	第二版発行	発行	札幌市教育委員会
平成27年(2015年)4月	第三版発行	印刷	総合商研株式会社